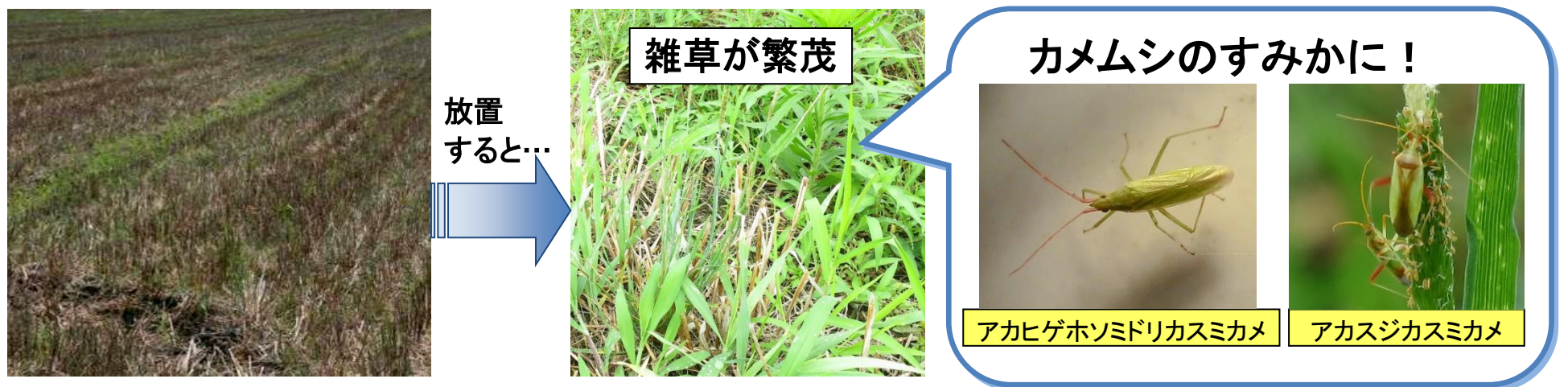


大麦収穫後の圃場をそのままにしておくとスズメノテッポウ等の雑草が繁茂し、斑点米の原因となるカメムシの発生源になります。カメムシの密度低下を図るとともに、麦跡圃場を有効に活用するため、緑肥作物、大豆やソバ・ハトムギ、園芸作物などの栽培に取り組みましょう。

## 【大麦跡をそのまま放置するとカメムシの発生源に！】

**○大麦収穫後の圃場は、速やかに耕起するなど雑草が繁茂しないように管理しましょう。**



## 【大麦跡圃場の有効活用対策】

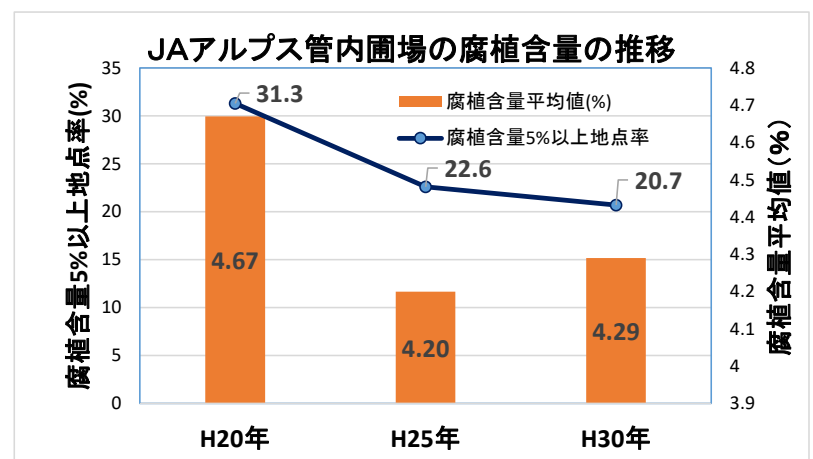
### 1. 緑肥作物の作付け

管内の地力の減耗が進んでおり、地力の指標である腐植含量が低下しています。麦作をすると腐植の減耗がさらに進みます。クロタラリアを作付けし、雑草の発生抑制と腐植含量の増加による地力向上をお勧めします。

◇品種名：「クロタラリア」（普通種）  
または「ネマクリーン」（丸葉種）

◇播種量：5～6kg/10a ◇播種時期：6月中旬～7月上旬  
◇すき込み時期：普通種：播種後50～70日 広葉種：播種後60～80日  
◇作付けの効果：

- ①雑草の発生を抑えます。
- ②すき込むことで、地力が高まります。
- ③翌年の水稻の基肥量を2～5割減らすことができます。



クロタラリア(左:丸葉種 右:普通種)

### 2. 園芸作物等の作付け

大麦跡に作付ける作物としては、「キャベツ」、「ハトムギ」等がお勧めです。

いずれも水稻の収穫作業と競合せず、機械化体系が整備されていることから、規模拡大が可能です。

また、「ハトムギ」は栽培管理作業を大豆機械で行えるため、取組みやすい作物です。

※大麦収穫後、麦稈を速やかにロータリやプラウですき込むことが大切です。



#### キャベツの作型

品種:天藍、新藍、冬藍

作型	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
夏まき		● 播種	● 定植	▲ 追肥①	▲ 追肥②	■ 収穫	



#### ハトムギ栽培のスケジュール

品種 あきしずく

5月	6月	7月	8月	9月	10月
	● 播種	▲ 培土			■ 収穫

**上記の対応策の中から、皆さんができることに取り組みましょう！**

**なお、詳細については、JA営農指導員・農林振興センターへお問合せ下さい。**